

(別紙1)

自己評価及び外部評価結果

作成日 令和4年 5月 19日

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	3070101518		
法人名	社会福祉法人 紀三福社会		
事業所名	紀三井寺苑グループホーム		
サービス種類	地域密着型共同生活介護		
所在地	和歌山県和歌山市紀三井寺617-3		
自己評価作成日	令和4年 5月19日	評価結果市町村受理日	令和4年6月30日

【事業所基本情報】

介護サービス情報の公表制度の基本情報を活用する場合	(基本情報リンク先URLを記入)
情報提供票を活用する場合	(別添情報提供票のとおり)

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 カロア
所在地	大阪府泉佐野市泉ヶ丘4-4-33
訪問調査日	令和 4年 6月 3日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

当事業所は桜の名所でも有名な紀三井寺の近くに位置する2ユニットのグループホームです。毎月、季節感を感じれるように行事やレクリエーションを実施しており、楽しみを持って、活気のある生活を過ごしていただけるように努めています。グループホームでの生活は9人1ユニットとして共同生活を送っていただく中で、これまでの在宅での生活の延長と捉え、家事などのお手伝いや身の回りのことなど出来るところは自己にて行っていただけるように支援して今までと同じように暮らせるようにと考えています。生活での不便が出てきたところは職員が支えとなり、利用者様、家族様が安心でき、個々の目標・希望に応じた生活が送れるよう支援させていただいています。

【外部評価で確認した事業所の優れている点・工夫点(評価機関記入)】

幹線道路から少し中に入った田畑が広がるのどかな環境にあるグループホームです。また、2ユニットある施設はそれぞれ特徴は違うものの、どちらの建物も清潔感があり、共有空間も自然の光が適度に差し込みゆっくりと過ごせるよう工夫されていました。天気の良い日には田園風景を見ながら散策をされたり、日向でゆっくりされたりと楽しみがもてるよう工夫され、日頃よりご利用者を中心に考えその人らしい生活が送れるよう支援しご利用者と職員が寄り添いながら生活を送っています。

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスとしての意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	法人とグループホームとの理念を掲示版に掲示して、職員皆で共有をはかっている。毎朝、合同の朝礼にて参加者で唱和している。	各ユニットごとに独自の理念が掲げられ、毎朝の朝礼時に唱和し共有されています。	
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	現状、コロナ禍であり、感染予防のため、地域との交流は難しい。	現在コロナ禍の為、なかなか地域との交流が出来ていないが、以前は法人の夏祭りやふれあい教室などを通じて交流も盛んに行われています。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	認知症の方のご家族など相談を受けている。		
4	3	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	現状、コロナ禍であり、感染予防のため、皆さん集まっての運営推進会議は行えていないが、各家族様との連絡、コミュニケーションを図りサービス向上につなげている。	以前は定期的に行われていましたが、現在コロナ禍で中止されています。	コロナ禍で開催は難しい状況ですが、書面での開催など今後の対応に期待します。
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取組みを積極的に伝えながら協力関係を築くように取り組んでいる。	制度やサービスに関する問題点などわからないことがあれば、相談させていただいています。事業所内での事故報告などさせてもらっています。	何かあればその都度連絡を行い相談し連携を密にとられています。	
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束しないケアに取り組んでいる	下肢筋力の低下や、歩行が不安定な方などセンサーマット等利用し見守りを工夫して安全に過ごして頂けるよう取り組んでいます。	年に2回の研修や3ヶ月に一回の会議を行い職員に周知するとともに、ご利用者に寄り添ったケアの実践に力を入れられています。	
7		○虐待防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所ないでの虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	事業所やグループホーム内でも人権擁護、虐待防止に努めている。		

8	○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見人制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	成年後見制度の利用についてなど職員1人1人が、しっかり理解できるように勉強会などを通じて学んでいきたいと思います。		
9	○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約または改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時には家族様が納得して頂けるように、十分な説明を行い、家族様の要望や疑問点なども合わせて尋ねている。改正等があった際にも、どのように変わるか説明させて頂いている。		
10	6 ○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	利用者様の様子を手紙に書いたり、電話などでコミュニケーションを図り、頂いた意見はスタッフ会議等で職員全員で共有し、サービス向上につなげています。	現在コロナ禍のため面会は中止されている中で、電話などでご家族とコミュニケーションをとり相談や意見交換を積極的に行い、サービスに反映されています。	
11	7 ○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、それらを反映させている	毎月のスタッフ会議で業務や利用者の方への対応の仕方などを話し合っています。日々気付いた点などもその都度、または申し送り時などに職員が意見を出し合い話し合いをしています。	毎月の会議やミーティング時に各ご利用者の対応や申し送り、業務についての話し合いを行い、職員の意見を吸い上げ運営に反映できるよう取り組まれています。	
12	○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	年2回の人事考課で実績の評価を行っている。職員の士気が下がらず常、向上心をもてる様に努めている。		
13	○職員を育てる取組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際の力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	グループホームの部署内で勉強会を行い疾病、認知症、介護等について理解を深めている。法人内での月1回の勉強会、随時行われる研修にも参加し、外部の講座、研修にも参加し、技術の向上に努めている。		
14	○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取組みをしている	同業者との交流をもてるように努めている。同法人内での相互の連携強化、特養などからの研修の受け入れやこちらからの研修などを行い、サービスの向上につなげている。		

II 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居される前の面談にて、ご本人、家族から日頃の様子や身体の様子、病気の事などをお聞きし、グループホームでの生活での要望などをうかがい、安心して生活して頂けるように関係づくりに努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	ご本人、家族の要望、思いをしっかり受け止めてケアにつなげていくことで信頼関係の構築に努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	ご本人、家族様からの聞き取り、話し合いから必要な支援を行い、その都度、サービスの見直しを行いながら、その人にあったサービスにしていく。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	家事など、利用者それぞれに役割分担をして頂きながら共同生活を送り、学んだり、支え合う関係を築いています。		
19		○本人と共に過ごし支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	電話で日頃からご利用者様の様子や状態を伝え、介護の相談や家族様からも話しをうかがい、一緒にご本人を支えて行けるような関係を作っています。		
20	8	○馴染みの人や場と関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	コロナ禍であり、入居以前のお知り合いの方との関係作りは難しくなっています。	現在コロナ禍で面会は中止されていますが、定期的に電話を行ったりと馴染みの関係が継続できるよう支援されています。	今後コロナが落ち着くにつれ窓越しの面会やオンラインでの面会などの対応も行えるよう期待します。
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	利用者一人一人の個性が合い、無理の無い関係性をもてる様に支援している。また、孤立される方がないように職員がパイプとなり上手に関わりあえるように努めている。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用（契約）が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退所された後も、その後の様子確認や相談等に応じています。		

Ⅲ その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント

23	9	<p>○思いやり意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している</p>	<p>日々の関わりの中で本人に問いかけたり、上手く伝えられない方には、その時々表情や言動から察し読み取り把握に努めている。その際の利用者の言動は生活シートに記入している。</p>	<p>入居前のアセスメントにて思いや意向の把握を行っているが、日々のコミュニケーションからも情報収集を行い、常に寄り添った本人本位のケアを実践されています。</p>	
24		<p>○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努める</p>	<p>これまでの暮らし方について、ご本人や家族様から聞き取った情報や基本情報をもとに、これまでの生活歴の把握に努めています。</p>		
25		<p>○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている</p>	<p>24時間の様子を記載する生活シートを用いて、一人一人の1日の生活の流れを把握し、心身の状態や出来る事、分かる事に注目し、その方全体の把握に努めています。</p>		
26	10	<p>○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している</p>	<p>ご利用者が望む生活を送って頂けるように、ご本人、家族様から希望や意見を聞き、課題となる事に関わるみんなで話し合い、介護計画の作成に活かしています。</p>	<p>3ヶ月に一回のモニタリングを実施し、ご利用者とご家族の思いを聴き取り、職員と連携し意見交換を行い介護計画を作成されています。</p>	
27		<p>○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている</p>	<p>ご利用者の方、それぞれについて毎日の生活の様子や心身の状況、ケアの実践、結果などを記録し、ミーティングやスタッフ会議で話し合い、介護計画の見直しに活かしています。</p>		
28		<p>○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスにとらわれない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる</p>	<p>状況の変化に柔軟に対応できるよう、看護師や主治医と随時連絡を取り合い連携の強化に努め、ご本人や家族様がその時望む生活を継続していけるよう支援しています。</p>		
29		<p>○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している</p>	<p>医療機関や行政機関や地域資源などを活用し、利用者の方が、安全にその人らしい生活を送れるよう支援しています。</p>		

30	11	○かかりつけ医の受診診断 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	利用者、家族様に希望する主治医を選んで頂いています。利用者の状態を家族様、主治医に随時報告し、適切な医療を受けられるように支援している。	協力病院・歯科の往診があり、法人内の特養の看護職員と連携し、週に1回の訪問と24時間オンコール体制があります。また、専門的な医療については、家族と受診するなど適切な医療を受けられるよう支援しています。	
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるよう支援している	看護師に利用者の状態を報告、相談し、適切な受診や日々の健康管理など状態の変化に応じた看護を受けられるように支援している。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている	入院された際、入院前の様子や生活の様子、既往歴、グループホームでの支援の内容など速やかに伝達、報告しています。カンファレンスなどに参加して情報をいただき、戻って来られてからの対応につなげています。		
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や、終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	重度化した場合や終末期のあり方について、ご本人、家族様の意向を踏まえた上で、医師、看護師、介護職員が連携し、チームとして支援に取り組んでいます。	ご利用者の重度化に備え、今年の4月から看取り介護が出来る体制を整えています。また、法人内の特養への移住も可能で、ご利用者の選択肢が増えました。	看取りに関する職員研修を進め、さらなる体制強化を行い、看取り介護の実現を期待します。
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	救命救急の講習の受講や、疾病に応じた初期対応の勉強会などを行っています。急変時の対応に備え、職員間でもその事態に応じた対応の仕方なども話し合っています。		
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	災害時の避難誘導や経路の確保など訓練を行っている。	法人全体で行う消防訓練とホーム独自の訓練を行い記録しています。また、ホームが川沿いにあり、実際に法人内の特養に避難した経験もあるとのこと。災害に備えホーム内にも備蓄を確保されています。	備蓄品をリストアップし数量や消費期限などの管理を行い、備蓄のサイクルを考え食料品を使った被災訓練をされてはいかがでしょうか。

IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援

36	14	<p>○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている</p>	<p>利用者の個性を理解し、一人一人の人格を尊重したプライバシーを損ねない声かけや対応に努めている。</p>	<p>新人研修として接遇マナーがあり、月に1回法人で合同の勉強会が行われ、参加されています。また、職員の対応で気になるところがあればその場で注意するなど努めておられます。</p>	
37		<p>○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている</p>	<p>食事や、その他の事に関しても普段のコミュニケーションをとる際に意向を聞いて自己決定が出来るように努めている。</p>		
38		<p>○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している</p>	<p>利用者、一人一人のペースを大切にし、希望や要望に添えるように支援を行っています。</p>		
39		<p>○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している</p>	<p>月1回美容師の訪問があり、希望があれば利用者の好みの髪型にカットして頂いている。起床時や入浴後等、整髪や更衣を手伝い、その人らしくおしゃれが出来るように支援している。</p>		
40	15	<p>○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている</p>	<p>利用者の希望を聞きながらメニューを考え、準備・食事・片付けなども一緒に行っている。</p>	<p>基本的には職員が利用者の好きな物を聴きながらメニューを考えています。コロナ禍で外食はできませんがテイクアウトをしたり、行事食や月一回のおやつ作りなど、ご利用者と一緒に参加しながら、食事が楽しめるよう工夫されています。</p>	
41		<p>○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、集会に応じた支援をしている</p>	<p>栄養バランスには注意をしている。利用者一人一人の食事量・水分量を把握しており、摂取量が少ない際は状況に応じて工夫をし摂取して頂けるように支援している。</p>		
42		<p>○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている</p>	<p>口腔ケアの声かけ、ポリドント洗浄のケアを行っている。</p>		

43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄パターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている。	利用者一人一人の排泄パターンを把握して、利用者の自立に向けた支援を行っている。	記録から一人ひとりの排泄パターンを把握し、ご利用者の状態を観察し排泄のシグナルを見つけ、必要時は医師と相談しながら、個々のケアに努めています。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	排便チェック表に記入し、便秘の状態を把握している。また、便秘予防のために水分強化や軽運動や散歩等を取り入れ支援している。		
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々に応じた入浴の支援をしている	入浴は利用者の意向やタイミングに応じた支援を行っている。入浴剤などを利用しリラックスしてもらえよう努めています。	基本的には週2回の入浴となっていますが、ご利用者の体調や希望に応じて変更も可能です。またゆず湯やしょうぶ湯、入浴剤を使用し入浴を楽しめるよう工夫し、重度化した場合には二人介助など、介護方法を見直しするなど工夫して入浴出来るよう支援しています。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	昼夜逆転することがなく、夜間安心して眠れるように支援している。また、不眠傾向にある際は状況に応じて主治医と家族様に相談し、不眠時薬を服用して頂き見守りを強化している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や要領について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	個人ファイルにお薬内容をつけ、薬の目的や副作用を提示して職員全員が把握できるようにしている。服薬チェックリストやWチェックも行っている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	日々の生活で張り合いや楽しみをもって頂くために日常業務の洗い物や洗濯たみ等手伝える方には協力して頂いています。		

49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるよう支援している	現状、コロナ禍でもあり、感染症予防のため、行きたいところに行くことは難しい。	コロナ前は買い物や外食などされていましたが、現在は天気の良い日には、近隣を散歩に出かけるなどストレスがないよう支援されています。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	利用者より買い物等要望があれば買って来ています。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援している	いつでも自由に電話をして頂けるように支援している。		
52	19	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）は、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	利用者に居心地良く過ごして頂く為に、毎日清掃を行い、空調や採光にも配慮している。また、季節感を味わって頂けるように季節に応じた飾りつけや季節の花等を生けたりもしている。	柔らかな光が差し込み、天井にはシーリングファンがあり、排煙用の窓を開け換気しています。空気清浄機も整備し、行き届いた掃除で、清潔感があり木の温かみも感じられました。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	その時々のお気分の変化等に合わせ、思い思いに過ごせる空間作りを随時行っている。		
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	家族様の協力を得て、居室に利用者の好きな物や馴染みの物を置き工夫し、最も安心して居心地の良い場所となる様に努めている。	居室は広く、大きなクローゼットがあり、空間がゆったりとしています。また、持ち込みは自由で（冷蔵庫も可）入居時説明し、ご家族とご本人が相談し部屋作りをされています。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	利用者、一人一人の出来る事・わかる事を理解し、それを活かして自立または維持出来るように支援している。		

V アウトカム項目			
56	職員は利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる	○	①ほぼ全ての利用者の ②利用者の3分の2くらいの ③利用者の3分の1くらいの ④ほとんど掴んでいない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある	○	①毎日ある ②数日に1回ある ③たまにある ④ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている	○	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の3分の2くらいが ③利用者の3分の1くらいが ④ほとんどいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている	○	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の3分の2くらいが ③利用者の3分の1くらいが ④ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている	○	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の3分の2くらいが ③利用者の3分の1くらいが ④ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごさせている	○	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の3分の2くらいが ③利用者の3分の1くらいが ④ほとんどいない
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている	○	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の3分の2くらいが ③利用者の3分の1くらいが ④ほとんどいない
63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聞いており信頼関係ができている	○	①ほぼ全ての利用者と ②利用者の3分の2くらいと ③利用者の3分の1くらいと ④ほとんどできていない
64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねてきている	○	①ほぼ毎日のように ②数日に1回程度 ③たまに ④ほとんどいない

65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている	○	①大いに増えている ②少しずつ増えている ③あまり増えていない ④全くない
66	職員は生き活きと働けている	○	①ほぼ全ての職員が ②職員の3分の2くらいが ③職員の3分の1くらいが ④ほとんどいない
67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の3分の2くらいが ③利用者の3分の1くらいが ④ほとんどいない
68	職員からみて利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	①ほぼ全ての家族が ②家族の3分の2くらいが ③家族の3分の1くらいが ④ほとんどできていない